

競 技 注 意 事 項

1. 競技規則について

本大会は、2024年度公益財団法人日本陸上競技連盟競技規則（以下、競技規則）及び本大会申し合わせ事項により実施する。

なお、競技規則（Technical Rules）をTRと表記する。

2. 練習について

別ページの「第 61 回東北地区高専体育大会陸上競技の練習会場について」のとおり行うこと。

3. 招集について

- (1) 競技者招集所は第1器具庫（第4コーナー）付近に設置する。
- (2) 招集開始時刻（点呼開始時刻）および招集完了時刻（移動開始時刻）は、競技開始時刻を基準とし、下記のとおりとする。種目別招集開始時刻・招集完了時刻は、プログラムの競技日程欄を参照のこと。

種別 \ 招集時刻	予選		決勝	
	招集開始	招集完了	招集開始	招集完了
トラック競技	30 分前	15 分前	25 分前	15 分前
跳躍競技（棒高跳を除く）	*	*	40 分前	30 分前
円盤投・砲丸投・やり投げ	*	*	50 分前	40 分前
棒高跳	*	*	50 分前	40 分前

(3) 招集の手順

- ① 競技者は、招集開始時刻（点呼開始時刻）に招集所で待機し、最終確認を受けること。
その際、アスリートビブス（リレー種目は競技者4人のユニフォーム）、競技用スパイク（靴）、衣類・持ち物等の点検を受けること
- ② ユニフォームおよび携行品の商標については、日本陸上競技連盟制定の「競技会における広告および展示物に関する規程」に従うこと。規程に抵触している場合は、是正を求めらるるので従うこと。
- ③ 招集完了後、係員の誘導で競技場所に移動する。
- ④ ビデオ装置・レコーダー・ラジオ・CD・トランシーバーや携帯電話もしくは類似の機器、その他外部と連絡可能な電子機器類を競技場内で所持または使用できない。
(TR6.3.2に該当)
- ⑤ 招集所は、当該種目の競技者以外の立ち入りを禁止する。
- ⑥ 代理人による招集の最終確認は認めない。

- ⑦ 2種目を同時に兼ねて出場する競技者は、最初の種目の招集開始時刻前までに「2 種目同時出場届」を招集所に提出すること。その際、トラック競技の出場者は、腰ナンバー標識を受け取ること。当該競技でトラック競技が先に開始される場合は、トラック競技終了後ただちにフィールド種目の競技場所に移動し、担当競技役員に申し出ること。また、フィールド競技の途中でトラック競技に出場する競技者は、競技開始前、当該競技役員にその旨を申し出ること。(TR4.3を確認するため)
- ⑧ 招集完了時刻に遅れた競技者は、出場できない。
- ⑨ リレー種目について
 - (ア)「リレー・オーダー用紙」はあらかじめ招集所に取りにいくこと。
 - (イ) 招集所で受け取った「リレー・オーダー用紙」に必要事項を記入し、招集完了時刻の1時間前までに競技者係(招集所)に提出すること。なお、一度提出した「リレー・オーダー用紙」は、主催者が任命した医務員等の判断がない限り、差し替えは認められない。(TR24.11) 医務員等の判断による変更は出場選手の変更のみ認められ、走順を再編成することはできない。
- ⑩ 欠場する者は、「欠場届」に必要事項を記入し、招集開始時刻までに招集所に提出すること。

4. アスリートビブスについて

- (1) アスリートビブスは、折り曲げないで、ユニフォームの胸と背に確実に付けること。ただし、跳躍競技の競技者は、胸部または背部につけるだけでもよい。また、トラック競技に出場する競技者は、写真判定用の腰ナンバー標識を招集所で受け取り、右腰のやや後方に付けること。
- (2) 特別アスリートビブスは主催者が準備し、招集所で配布して、フィニッシュ地点で回収する。
- (3) アスリートビブスは各校で準備し割り当ては次の通りとする。
八戸：100～ 一関：200～ 仙台名取：300～ 仙台広瀬：400～
秋田：500～ 鶴岡：600～ 福島：700～

5. 競技場内への入退場について

- (1) 招集所から競技者係の誘導により競技場に入場する。
- (2) 競技終了後は、競技役員の指示に従い退場する。なお、決勝において入賞者の競技者を入賞者控えに誘導する。

6. 番組編成について

- (1) トラック競技の予選のレーン順・フィールド競技の試技順は、プログラム記載順による。
- (2) トラック競技の決勝については、主催者がルールに則り、レーン順を決定する。正面玄

関協の掲示板に発表する。

- (3) トラック競技決勝のタイムによる競技者の決定について、最終枠に同記録があるときの処理は、写真判定主任が0.001秒単位の時間を判定して競技者を決定する。それでも同じであれば、同成績とする。空レーンがあるか、走る場所があるのであれば、同成績者は次のラウンドに進める。レーンに余裕がない場合は、同成績者または代理人によって抽選する。

7. 競技について

- (1) 競技場内には、当該種目出場の競技者並びに役員（審判員および補助員）以外は、立ち入ることができない。
- (2) トラック競技のスタートにおいては、「On Your Marks」あるいは「Set」の合図後に音声や動作、その他の方法で他の競技者を妨害した競技者には、審判が警告を与える。
なお、同一競技会の中で二度の規則違反があった場合は失格とする。
- (3) セパレートレーンで行うトラック競技では、欠場者のレーンはそのまま空ける。
- (4) 短距離走では、競技者の安全のため、フィニッシュライン通過後も自分に割り当てられたレーン（曲走路）を走る。
- (5) トラック競技では、すべて写真判定装置（全自動電気計時）を使用する。
- (6) リレーチームの編成メンバーは、どのラウンドにおいても本競技会のリレーまたは他の種目に申し込んである競技者であれば出場できる。ただし、どのラウンドにおいても、出場するメンバーのうち少なくとも2人は当該リレー種目に申し込んだ競技者でなければならない。最初のラウンドに出場した競技者は、その後のラウンドを通して、2人以内に限り、他の競技者と交代できる。また、リレー競技に出場するチームは、同一ユニフォームを着用する。(TR5.1, TR24.10)
- (7) 4×100m Rの第2・第3・第4走者は、マーカーとして1カ所使用することができる。
マーカーは各チームで用意し、レース終了後に取り除くこと。
- (8) 4×400m Rの第3・第4走者は、審判員の指示に従い、前走者が第2曲走路入口（200mスタート地点）を通過した順序（コーナートップ通過順）に、内側より並び待機する。その後、待機している走者は、この順序を維持しなくてはならず、バトンを受け取るまで入れ替わることは認められない。
- (9) すべてのバトンパスにおいては、テイク・オーバー・ゾーン外から走り出してはならず、そのゾーンの中でスタートしなければならない。
- (10) フィールド競技は、走高跳を除いて主催者が用意したマーカーを置くことができる。
跳躍・やり投げの競技者は、助走路の外側に2カ所置くことができる。また、走高跳競技に出場する競技者は、助走路内に各自が用意したマーカーを2カ所置くことができる。
サークルから行う投てき競技では、マーカーを1カ所だけ置くことができる。そのマーカーは、サークルの直後あるいはサークルに接しておくこと。
- (11) フィールド競技の試技時間は、競技規則 TR25.17のとおりである。
- (12) 棒高跳の競技者は、支柱を自分の希望する位置に移動してもよい。支柱がセットされ

る前に、当該競技役員に申し出ること（本競技会では「支柱移動届」は準備しない）。

- (13) 男子三段跳びの踏切版は、10mまたは12mを用意する。
- (14) フィールド競技における競技場内の練習は、担当審判員の指示により行う。公式練習は2回とする。
- (15) 投てき競技の計測は、メジャー計測とする。
- (16) 競技者に対する競技場内での助力は禁止する。「コーチングエリア」は特に設けない為、助言についてはTR6.4を特に留意すること。よって、スタンドからの助言については競技運営ならびに他の競技者の競技の妨げにならない範囲で認めるものとする。
- (17) 助力に関しては、特に以下の項目に注意が必要である。(TR6)
 - ① 競技者が競技場所を離れる場合は、競技役員に申し出なければならない。
(TR25.19, TR6.4)
 - ② ビデオ装置、レコーダー・ラジオ・CD・トランシーバーや携帯電話もしくは類似の機器を競技区域内に持ち込んで서는ならない。
 - ③ 競技区域内への映像機器の手渡しについては、ルール上は可能だが、今大会は適用しない。
- (18) 競技中における助力は「日本陸上競技連盟競技規則 TR6」に従い規制される。これに抵触の場合は審判長から注意、勧告をするが、是正されない場合はその種目から除外される場合がある。

8. バーの上げ方について

走高跳、棒高跳のバーの上げ方は次の通りである。

種 目	種 別	練 習	1	2	3	4	5	以降
走高跳	男子	1m55	1m60	1m65	1m70	1m75	1m80	+3cm
	女子	1m20	1m25	1m30	1m35	1m40	1m45	+3cm
棒高跳	男子	2m70	2m80	2m90	3m00	3m10	3m20	+10cm

- (1) 走高跳・棒高跳で最後の一人になり、第1位が決定するまで上記の上げ方とする。
- (2) 第1位が同成績の場合における順位決定のバーの上げ下げは、走高跳は2cm、棒高跳は5cmとする。（全国大会出場権を決定する場合においても同様である。）

9. 競技用具について

- (1) 競技に使用する用器具は、棒高跳用ポールを除き主催者が用意したものを使用しなければならない。
- (2) 個人の練習用器具は、競技場内に持ち込まないこと。
- (3) 競技用靴についてはWAの規則（TR5.2）を適用する。スパイクピンの長さは、9mm以内とする。但し、走高跳・やり投げは12mm以内とし、これらのスパイクの直径は、4mm以内でなければならない。なお、スパイクピンの数は11本以内とする。
- (4) ハードルの高さは次の通りとする。

種目	種別	高さ	インターバル
110mH	男子	1.067m	9.14m
100mH	女子	0.838m	8.50m

(5) 投てき競技の使用する器具は次のとおりとする。

種目	男子	女子
砲丸投	6.000kg	4.000kg
円盤投	1.750kg	1.000kg

10. 抗議と上訴について (TR8)

- (1) 発表された結果に対する抗議は、TR8 に定められている時間内（同一日に次のラウンドが行われる場合はアナウンス後 15 分以内、それ以外は 30 分以内）に競技者自身または、代理人が審判長に対して口頭で申し出なければならない。
- (2) 口頭での抗議に対して、審判長の裁定に不服としてさらに上訴する場合は、その競技者に代わる責任者（顧問または監督）が預託金（1 万円）を添え、担当総務員を通じてジュリーに文書で申し出る。この預託金は、抗議が受け入れられなかった場合は、没収される。

11. 表彰について

- (1) 各種目の 1 位から 3 位までの競技者には賞状を授与する。入賞者（代理可）は、競技終了後表彰を行うので、正面中央ホールの表彰控え所に集合すること。
- (2) 各種目優勝者にメダルを授与する。
- (3) 表彰時の服装は、原則、チームウェア等（競技用とウォーミングアップ用の衣類どちらでもよい）を着用。T シャツ着用も可とする。下半身はウォーミングアップ用衣類（各高专ジャージ）が望ましい。なお、衣類の商標（ロゴ）に関して日本陸上競技連盟の規程に基づき、競技役員から指摘を受けた場合は、その指示に従うこと。

12. 一般的注意事項

- (1) 応急処置、その他健康上の問題が生じた場合は、大会本部救護係に連絡する。
- (2) 競技会での疾病・傷害等の応急処置は主催者で行うが、以後の責任は負わない。
- (3) 大会中の貴重品の保管は、各自・各チームで行うこと。盗難にあっても主催者ではその責任は負わない。
- (4) 記録はその都度発表するが、別に設置する記録掲示板に印刷物で掲示する。
- (5) 観戦・応援について
 - ① 声を出しての声援は可とするが、競技の妨げとなるような応援は禁止する。
 - ② 集団応援は、サイド・バックスタンドに限定する。メインスタンドは禁止する。
 - ③ スタンド通路での立ち見はしないこと。
 - ④ メインスタンドの最前列にあるフェンス近辺に立っての応援は、観客の迷惑になる

ので禁止する。

13. 撮影（写真・ビデオ等）に関するお願い

- (1) 競技者本人および保護者の了解がない撮影を禁止する。撮影を希望する場合、申請が必要である。学校受付で申請すること。
- (2) 許可証を常に持参して（首に掛けて）撮影すること。
- (3) 各参加校の監督およびコーチや学生等は、学校名がわかる服装であれば撮影を認める。
- (4) 以下の場所での撮影・行動を禁止する。（重点警戒撮影方向）
 - ① 各種目のスタート後方および前方からの撮影
 - ② 走高跳、走幅跳、三段跳、棒高跳の助走後方・着地前方からの撮影
 - ③ 投てき種目における選手の正面からの撮影
 - ④ 通路及びスタンド以外での撮影
 - ⑤ 競技の観戦とは全く関係のない目的での撮影、身体の一部を拡大した撮影
- (5) 望遠レンズを使用しての撮影の際には、学校受付に申請すること。
- (6) 競技者等に著しく迷惑をかける行為であると主催者が判断した場合は、速やかに警察および関係機関に連絡する。また上記規則を守らなかったことによるトラブルについては、該当校の顧問に対応をしていただく。
- (7) 不審な行動をする人物を見かけた際は、近くの役員に声を掛けること。

<例外事項>

表彰時のみ、メインスタンド最前列の通路での撮影を認める。ただし、撮影の際は、周囲の方の迷惑にならないように留意すること。表彰終了後は速やかに移動すること。

第 61 回東北地区高専体育大会陸上競技の練習会場について

練習会場	7 月 5 日（金）※前日練習		7 月 6 日（土）
主陸上競技場	トラック・跳躍競技		7：30～8：50
	投てき競技	砲丸投	13：00～17：00
		円盤投	13：00～17：00 14：00～15：00 16：00～17：00
		やり投	13：00～14：00 15：00～16：00
補助競技場なし			

※投てき練習は大会前日のみ

- ・ 各種目の練習については、安全に十分配慮し、各学校の監督の責任において行なうこと。
- ・ フィールド内で、やり投げや円盤投げの練習を行なっている場合は、フィールド芝生内には入らないこと。
- ・ フィールドの横断はしないこと。
- ・ トラックは左回りで使用すること。

◎ トラック

- ① 周回 1～2 レーンは中・長距離
- ② 周回 3～6 レーンはリレーのバトンパスを含めた短距離
- ③ ホームストレート 3～6 レーンは短距離
- ④ ホームストレート 7 レーンは 100mH、ホームストレート 8 レーンは 110mH

(注) 各レーンとも第 4 コーナーからホームストレートへの交点付近は危険なので特に注意すること

◎ 投てき

- ① 砲丸投げ・円盤投げは南側のサークル
- ② やり投げは北側ピット（※前日練習日のみ）

(注) やり投げ、円盤投げの練習は三角コーン内で行うこと。

●雨天時について

室内走路（メインスタンド 1 階）の指定した場所について、ジョグのみ許可します。その際、混み合うことが予測されます。接触等に十分注意して行なうこと。

- ・「指定した場所」については、当日コーン等で指示する。
- ・ダッシュ等のスピードを伴う練習は行わないこと。

《その他》

※跳躍・投てきの競技については招集後各ピットにて競技開始前に競技審判員の指示に基づき跳躍・投てきの練習を行うこと。

※競技中のトラック使用については、競技の支障のない限りバックストレートの使用を認めるが、周回競技中の使用は不可とする。

☆ 前日(7/5金) 練習場所および時間

トラック・跳躍競技 (13:00～17:00)
投てき競技 砲丸投 (13:00～17:00)
円盤投 (14:00～15:00),(16:00～17:00)
やり投 (13:00～14:00),(15:00～16:00)

